記者発表資料

平成２８年１月１５日
真 室 川 町
国土交通省東北地方整備局
新庄河川事務所

真室川小学生による手作り学校新聞が完成しました
～真室川災害から40年、取り組みの集大成～

「昭和５０年真室川災害」から４０年の節目を向かえ、各種取り組み(※1)を実施してきました。その集大成として真室川小学校４年生による学校新聞が作成され完成したことから**『真室川災害　学校新聞』の展示**を下記のとおり実施します。

また、真室川町学校新聞コンクール(※2)に出展され、「学級新聞の部・上学年」で**最優秀賞**を受賞しました。

※1 各種取り組みについては添付の参考資料を参照ください。

※2 学校新聞やPTA新聞などを対象に5部門で審査される新聞コンクール。今年で12回目の開催。

記

◆実 施 日　　平成２８年１月１８日（月）～１月２９日（金）
◆実施場所　　真室川町中央公民館玄関ロビー

なお、２月１日（月）からは新庄河川事務所にて展示を行います。

＜発表記者会：新庄新聞放送記者会＞

＜問い合わせ先＞

【学校新聞について】
■真室川小学校
教頭　武田　茂行（TEL 0233-62-2023）

【新聞展示について】
■真室川町役場
総務課（総務･危機管理担当）　主査　新田　寿昭（TEL 0233-62-2111）

■国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所
建設監督官　土岐　範彦（TEL 0233-22-0256）

学校新聞作成までの流れ

【参考資料】

①5月14日　【災害体験談による防災学習】



①高橋さんによる体験談学習

②6月18日　【出前講座：昭和50年真室川災害】



②田村事務所長による出前講座

③6月25日　【被災箇所等の学習】



③被災箇所学習

④7月　2日　【模型実験、対策施設等の学習】

⑤9月～10月　【学校新聞の作成】
※体験者へのインタービューを実施



④模型実験による土砂災害学習

⑦学校新聞完成



④施設学習【二の沢砂防堰堤】

⑧1月18日～　【学校新聞展示】

※新聞記事の使用について各社より承諾を得ております。　　【参考資料】

「真室川災害から４０年」忘れてはならない教訓としての取り組み〔結果報告〕

昭和50年8月6日の「真室川災害」から平成27年で40年の節目を向かえることとなり、悲惨な災害の記憶を風化させること無く、後世に伝承していくことが求められており、当事務所と山形県真室川町が連携し、「真室川災害から40年」企画として、下記のとおり実施しました。

1. まるごと里ごとハザードマップの実践

地域単位でのきめ細かな避難行動と災いをやり過ごすすべを共有しました

昨今の被災状況等を考慮してソフト対策の推進に向けて、土砂災害の前兆現象を速やかに通報いただくと共に、各種警戒情報等を踏まえ、地域の住民が自主的に対応等を速やかに出来るよう、「まるごと里ごとハザードマップ」作成を試行的に取り組みました。

※なお、寒河江川砂防管内においても「まるごと里ごと土砂防災」として同様な取り組みを実施

【主な実施内容】

①まち歩き　約２時間かけて地区内を歩く【平成26年11月19日真室川町】
- 避難場所になる箇所や土砂災害警戒区域指定（予定）箇所などを確認
- 「ここは過去の土砂災害でどんな被害があったか」
- 危険箇所を見つけたなら地図に印を付けて写真撮影
- 避難誘導の標識設置最適箇所の選定　など

②ＤＩＧ（図上検討）　公民館に戻って検討【平成26年11月19日真室川町】
- 地図を広げる
- 歩いてチェックした場所にシール、写真を貼り付ける
- 「避難時注意」などと書いたメモ用紙を貼り付ける

③避難経路図【平成27年6月1日真室川町】
- 土砂災害警戒区域等、土砂災害の発生原因となる自然現象の種類を記載
- 土砂災害に関する情報の伝達方法　など

④標識設置【平成27年6月22日真室川町】
- 避難所となる施設、誘導に効果的な箇所に設置

⑤訓練・検証【平成27年10月24日真室川町】
- マップを用いて訓練を実施し確認検証



平成26年11月28日山形新聞14面



平成27年2月27日
山形新聞14面

ハザードマップ作成の流れ



地区役員の方々へ趣旨説明会を開催　危険箇所などを確認　まち歩きの結果を地図を広げてみんなで検討　土砂災害ハザードマップ作成・配付　標識設置

2. 日本郵便(株)等との連携

より多くの目で前兆現象をとらえ速やかなアクションを行える環境ができました

土砂災害危険区域及びその周辺に所在する郵便局と当事務所が相互に協力し、防災体制の一層の強化が図られるよう、真室川町、真室川郵便局(代表)と3者での協力協定書を平成27年8月4日に締結しました。


協定書への調印





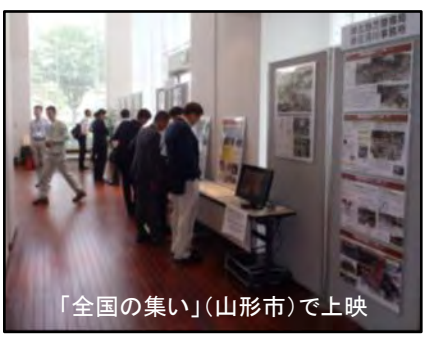
平成27年8月14日朝日新聞23面

3. 災害写真、映像等での広報展開

貴重な災害資料を集め、35，000人へ広報活動ができました

土砂災害防止「全国の集い」、「巡回パネル展」で真室川災害DVDを上映。パネル展では真室川災害パネルも展示しました。

◆巡回パネル展
- 7月23日～7月31日：戸沢村
- 7月31日～8月　7日：大蔵村
- 8月　7日～8月20日：大石田町
- 8月20日～8月27日：尾花沢市
- 8月27日～9月　2日：鮭川村
- 9月　2日～9月　8日：真室川町
- 9月　8日～9月14日：新庄市
- 9月14日～9月18日：金山町


「全国の集い」(山形市)で上映


巡回パネル展（真室川町）

4. 次世代に伝える防災術〔親から子への伝承〕

次世代を担う子供達の記憶に刻むことができました

悲惨な災害の記憶を風化させることなく、後世に伝承していくために真室川小学校3年生以上を対象に体験談学習、出前講座、被災箇所・施設見学を実施しました。学習成果は学校新聞としてとりまとめていただきました。

・5月14日　【災害体験談による防災学習】
・6月18日　【出前講座_講師：田村事務所長】
・6月25日　【被災箇所等の見学】
・7月　2日　【模型実験、対策施設等の見学】
・9月～10月【学校新聞の作成】
・1月18日～【学校新聞展示】





田村事務所長による出前講座



模型実験による土砂災害学習



防災の大切さ 実感

真室川災害から40年 地元児童が学ぶ

3、4年生が真室川災害について学んだ特別授業＝真室川町真室川小

平成27年5月15日山形新聞24面

5. 防災訓練

訓練を通して災害の猛威に対しての対策を再確認しました

真室川町では、「真室川災害」を教訓に毎年防災訓練が開催されています。今年は防災能力の向上や防災知識の普及と防災意識の高揚を図るため地震及び土砂災害を想定した訓練を真室川町と合同で9月6日（日）に実施しました。訓練実施内容は下記のとおりです。

◆「排水ポンプ車排水訓練」
◆「災害対策車両展示」
◆「土砂災害模型実験」
◆「パネル展示」
◆「水位計ブイ設置訓練」



排水ポンプ車排水訓練



土砂災害模型実験



ブイ投下訓練の説明



災害対策本部車両展示



水害から40年 意識新た

真室川

平成27年9月7日山形新聞24面

6. その他広報活動

「昭和50年　真室川災害」～あれから40年～

ロゴを事務所資料、記者発表資料、名刺などに入れて広報展開しました。災害発生日の8月6日には町長が防災無線で町民へメッセージを発しました。



【町民へのメッセージ】
本日は昭和50年真室川大災害から40年の節目にあたります。尊い命が犠牲となり、多くの町民が財産を失い、途方に暮れている中、全国から数々のご支援をいただき、また、多くの方々の努力とご協力により、復興、発展し、現在の真室川町ができましたことを忘れてはなりません。いつ、どこで、どのような災害がおこるかわかりません。日頃より災害に対する心構えと準備を怠らず、また、地域内で互いに声掛けや避難支援ができるよう体制を整えていきますので、ご協力をお願いします。

7. おわりに

今回「真室川災害から40年」企画として「記憶を風化させない」「後世に伝承していく」ことを念頭に町と連携しながら取り組んできました。中でもニュース番組内で「真室川災害・記憶と教訓」という6分程の特集で「ハザードマップ」、「防災学習」が取り上げられ放送を通じて多くの方に災害時の対応や防災を意識するきっかけとなりました。今後もいろいろな節目をみつけ忘れてはならない教訓としての各種取り組みを展開していきたいと思います。

8・6水害おそろしい

歴史

小口大未樹
川井健郎
志藤
宝
真室川
西瀬橋田
梁高新井
西橋

昭和五十年、八月六日大きな水害が起こりました。真室川町全体にその被害がわたりました。

水害で、新橋と木の下橋の二つの大きな橋がだく流でこわれてしまいました。

その他に家なども流されました。

8・6水害で最も被害が大きかった所は、真室川町の人を見ると、家のやねの上までつかっていたそうです。家の半分以上が水につかっていました。

家屋全かい453戸、ゆか下しん水1788戸と被害を受けました。

このだく流が真室川町の中心部にせまってきたときは、ものすごいいきおいでした。

それから一日、水は全てゆか下しん水が合わせて1788戸と被害を受けました。

さらに、大きなていぼうもこわして川の水があふれ、町をおそいました。

「たそうです。12：30に川を見ると川には、いじょうはなか。たそうで、1：00に川を見ると水が7mくらいまでふえていました。6mmの雨がふったそうです。明るい時間だったので死者は少なかったそうです。この水害で、4名、じゅうしょうろく名だったそうです。

八天水害では、ゆか上ゆか下しん水、土砂くずれなどのひがいが77くの人をおそいました。6mmの雨がふったそうです。

真室川町の3分の1（中心部）がやられたそうです。真室川町をおそった水害では、死者はさいわい少なくて、

100億円でふっ活

真室川町の人口は、水害があった昭和50年は、約1万5千人でした。

今は、約1万人です。

水害があった時、真室川町の人口

八・六水害で学んだこと

音な美月　李星
ん琴い奈睦渉琳娘
は尚ひ司部楠田田
八柿母庄渡高土前

八・六水害の悲げき

八・六水害では、いろいろなものが流されました。八・六水害で、新たんこなどとても大きな橋と真っ赤な橋のような大きな橋も事な物も流されて、水害流されるほど大きな強い水害だって行方不明になった人もたそうです。ほかにも、流木や土いました。家も53けん流しゃなどをかたずけにきてくれたされそのほかに死者も4人もいました。家の下にだく流が人いました。水害で、と流れて、その家の2階に人がいたても大切な物まで流されけどだれも助けられる人はいませた人もいます。水害の水人でした。町の3分の1水害があの高さがすごくて屋根がたし、水は1m82まであがりましら電線に飛びうつ、た人た。そのほかに、列車がてんぷくもいました。飛びうつ、するほどすごかったそうです。こた人はしばらくしたら流んなにすごい水害がおこるのもおされていったそうです。かしくはありません。わけは、三それを見ていた人は、助時間に満たんのばけつの量がず。からないだろうと思ってとふっていたそうです。とても大いたがどこかの家に泳いきい水害でした。

また、全国から救えん物資がへリコプターで救助されたことは、今も記憶に新しいと思います。ほかにも家の2階にいたんでいたからかなり助けられた話だと思います。真室川8・6水害でひなんしたんたんたなあーと思いました。

こんなにすごかった水害でも一つだけいい事はありました。それは、ひなんが送られてきたり全国の人たちのおかげで4年間で、ふっきうすることができました。

理由は、流されていなかった家から、食料をすべても、てきて、みんなで分け合って、仲よくなったからです。ひなんしている間には、自衛隊のみんなや、ボランティアの人も助けました。庫からされたけれや、泥田のりうヤンマーの社長さんは、ぬっちにいけばいいかわからないかったなおあさんも助けたそうです。



ひなんした人たちが仲よくなったよ！

今とくらべて

わたしは、今とくらべてすいのに八・六水害では、寝高でかごと思いました。今はぐミりふったどきうのがとてもすごとてもきれいな町なんだかったと思いました。今は、すごけを昔は、八・六水害えきれいだけどなこた水害も町がでとてもたいへんだ。水害がなったとは、おもえません。たと思いました。今でした。家には、どう水が入ってとくらべてのこときたので本当にこわい水害だと思は、今はそんないました。わたしは家族に水害の経にすごくはなことをを教えたいと思いました。

家が流されている所

八・六水害で学んだこと

わたしは、八・六水害でいろなことを学びました。1つ目は、水害のこわさを知りました。水害で死者が四人も出たことです。死者がどうして出たかと言うと電車そろしく人間や動物が死んだ転ぶくしたりと砂くすれによるものだそうです。わたしは、その話を聞いて死者がでるほどとてもきい水害になてしまったと思いました。こんなに大おそろしか、たけれども水害でなと、水害がおさまって本当に者が出なか、た事もすごくに、安よか、たと思、たし、一つまりしました。災害がすごいで橋や道路がなお、たことが六水害でわたしは水害のこわさすごいなと思いました。おそおそろしさを知って命カオカをろしか、た水害でこれいと思、ても、と知れたし、今度からは水害がたけどいろいなことをおいておきてもいいようにしたいとよか、たです。

結果

八・六水害の結果は、死者が4人で、負傷者は24人そのほかに行方不明が一人いました。

後書き

今回のことをふまえておばあさんたちの伝えたいことを書きます。「二度とこんなことは起きないでください」とねがっています。私も「起きないようにとねがっています。

水害を伝えよう

八・六水害をふり返って

真室川小学校
真室川小学校 四年
藍菜砂加翔也
来優浦彩聖
野生場松蔭田
小舟大小佐菜

八・六水害を体験して、今、伝えたいことを聞きました。伝えたいことは、水のかさが上ってきたら逃げたいに近かようないことだそうです。

その他にも、聞くと水害がおきないように川をよごさない（ごみをすてない）ことだったり、水害がおきたら、あわてず、あせらずにげること、自然こい害は、人の命をうばうものだと言うのは、わすれないことです。自然で出きた物だからと言って、ゆだんしてはいけません。だから、いつでもひなんできるように、気をつけることと。

もし、今水害がきたらわたしたちは安全な所ににげたり、聞いた今伝えたいことをいかしていきたいです。水害は今から40年前です。真室川のようにあまり水害のおきない町をも水害がおこるなんてかっくりしました。水害がおきたときうことは、分かっていたけどインタビューして

「どんな水害だ、たかど」

「とんなじょうきょうだったか」

なのを知れて、わたしたちは、ものすごくこわい水害だったと思いました。

雨がふって八六水害になる

一時間にらいりのたきシザーザと町全体を雨のような大雨が3時間水が大きな流れをふり続きをうでばっしょとときました。そは7月位、暑い日が続のやでも新栄町は一番被害が多かったそうです。人は約四人で死者がすくなくて、ひくりです。音この人たちは、すごい人だなあと思いました。

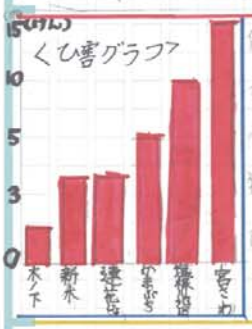
わたしは、まだ10才だけで、この人生の中で一回も水害をたいけんしたときがないし、こんなおそろしい水害は、二度とおきてほしくないです。たの勉強をしていて、てもよかたです。

多くの人が助け合った!!

水害の当時きイメージを絵に表してみました。



ひ害の大きい順に表に表すと？



同じはんの人のしりょうからぬき出しひ害の大きい順にしてみました。そのこうもくは、ひ害なし」と流されている物を見た」と「何かがこわれた」うつでそれをほっグラフにしました。

わたしがかだしいかにひどさが何な水位にひ害なしと流されている物を見たと何かがこわれたうつでそれをほっグラフにしました。

伝えたい事

一つ目つたえたいことをきくと、水のかさが上がってさたら、せったいに近よらなことということです。

3つ目は大雨がふってあふれてきたらはやく高いところににげることです。

あとがき

40年前の八六水害に、なぜ死者が少なかったかというと、町の人は、水害が来たと分かり、高い所ににげていて、多くの人が助かったからです。ハザードマップがあらわできてしまでけがをした人や水害を知ったんがいたから死者が少くなかったし助かった人が多くいたのかとぼくたちは知りました。

もし、水害が起こったらあぜらずたいしょすることが大事だと思います。あと、自分から、近くの人どうし声をかけあい、高い所ににげたりして、自分の命は、自分で守りたいと思います。

平成　年　月　日第　号
真室川小学校
山形県新聞教育研究会

水害から40周年 新聞

校 海 紘波宗要
川学 七 美美政
室小班 嵐 嵐
真 巨藤十田場口十
佐五柴大矢五

平成 年 月 日 第 号
真室川小学校

めぐみの雨からきょうふの雨へ

八月六日の朝、真室川をおそった水害「八・六水害」は、今年で四十周年をむかえます。その水害は、真室川中心部がとくに水ぼうの橋けたまで水位しその深さはさいだいで二〇にもなるそうです。新橋通りでは、家が四五件流されたそうですが、幸い死者がいなくて本当によかったと言っていました。二つ目は、真室川の上流のぞき地区は、一時間あたりのこう水量は、六十mmだった。その後、あっと言う間にまなずる橋の橋けたまで水位が上がりました。ていぼうがこわれてお家に水が入り、そうになったので、家族みんなでたたみや家具を二階までひっしにはこんだそうです。次に三つ目は、さけ川を通って通回りして真室川にきました。真室川町の三分の一が悲害にあったそうです。そして、助けられた人はかなりの数だそうです。よかったと思います。きせき的に、雨は真室川小学校には、入ってこなかったそうです。さけ川から真室川の最上から日本かいへ水が流れたそうです。四つ目は、水害は、たいへんでどうぶつもしました。牛をかって流されないように近くの電注につないだそうです。新橋通りのお家では、かっていた犬が流されたそうです。かわいそうだと思いました。その後、ていぼうの工事が進み今は、大雨がふっても水害が発生することはなくなりましたが、八・六水害という大きな水害を心にきざんで、これからも生きていきたいと思いました。

心にきざむ



水のおそろしさ

ぼくたち、わたしたちに水害を通して伝えたいことは二つあります。一つ目は、水害がおきそうな事があるっていきたいです。時は、大人の話をよく聞く事です。なぜかと言うと、子どもたちでは、ぜったいにパニックしてしまうからそう言う時がある場合は、大人の言う事を聞くと、大人の人はわたしたちが安全にできるようになるべく早く教えてくれるからその時はきちんと言う事を聞いて自分たちの命を自分たちで守っていきたいです。二つ目は、今の町をどんどんそだてていく事です。ぼくは水害を通して感じた事は、この町には何が必要か何が必要ではないかを考える事をぼくは感じました。これからは、ぼくたちがゆたかで幸せなくらしにしていくために、これからは、ぼくたちがこの町を守ってみんなが安全で毎日が楽しいくらしになるようにこれからは、みんなで真室川を守っていきたいと思います。これら二つを通して、分かった事があります。「自分の命は自分で守る」と言う事です。わたしたち、ぼくたちは、これらの事を守って楽しく安全に毎日をすごしていきたいです。





良くなった真室川の自然

ぼくたちのためによくなったことがあります。一つ目は、水害がおこらないように川を深くほったことです。なぜ深くほったかと言うと、川を深くほると、どんなに大雨がふっても川の水が、あふれないからです。二つ目は、防災ステーションに置かれてあるタコのような形をした「テトラポッド」という物があります。その「テトラポッド」は水害の時にそなえて、そなえてあります。水害がなくなるように真室川の人たちはいろいろな事をして二度と水害がおこらないようにしてます。

七十一mmその雨とは

八月六日の前日の朝から大雨がふって真室川の大きな地いきが悲害を受けました。のぞき中学校にひなんした人や家のやねに登った人もいました。その日の朝から六十一mmの雨がふってだくりゅうがていぼうをこえすぐにていぼうがこわれました。次の日からふっきゅうが始まり、七日後には電車もふっきゅうしました。水害の時に流れていったものは日本海にいって日本海の人たちが拾ってとどけてくれたそうです。インタビューに答えてくれた方ありがとうございました。

今できること

わたしたちは、おばあちゃんやおじいちゃんからの話を聞いて、自分たちでこれからできることを考えました。わたしたちは相談して三つできることを思いつきました。まず一つ目は、雨が多くふって真ん中ぐらいまで上がったらすぐ大人の言うことを聞いてひなんすることです。二つ目は、休みの日に、子どもたちだけで、川遊びをしないことです。三つ目は、大雨がふっている時は、土砂くずれがおきると悪いので山に近よらないことです。わたしたちは、これら三つをしっかり守り生活をおくりたいと、みんなで決めました。

今とくらべて

書き終っての感想は本当に水害は、こわいしたくさんの人が体験してその人たちから話しを聞いてみんなが一つにならないとふっきゅうできないたいへんな水害だと思いました。

わたしたちのしんぶん
山形県新聞教育研究会

しょうげき新聞

水害ってこわいな

水害で知ったこと

わたしはこの勉強で、この真室川町にも水害が来た事をはじめて知りました。雨は60ミリ、最高で71ミリふりました。71ミリは、バケツをひ、くり返したくらいの雨ですなのでこの真室川町にも、バケツをひ、くり返したら、位の大雨がふ、たということです。その雨で、橋やていぼうがこわれたりしました。その橋やていぼうをなおすのには、予かく百七十万円ものおかげで水害から40年た、

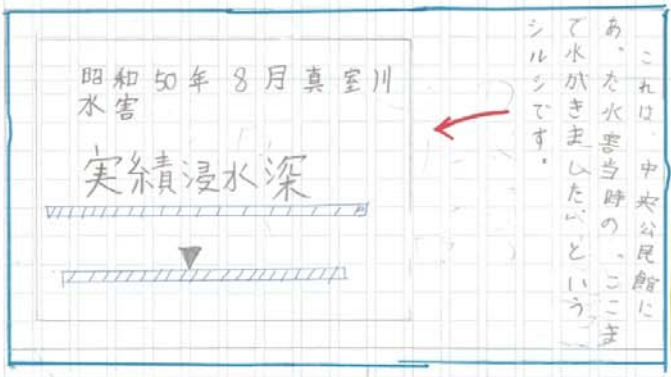
て、このような町になりました。水害のことが書かれた防災記念ひが、真室川公園にあります。その記念ひには、八・六水害のひ害をうけた人の言葉が書かれています。その言葉とは、防災の心を忘却するごとがなく再び災害の発生しないことをひたすら念じこの碑と建設すると書いてありました。ここには、八・六水害のひ害をうけた人の気持ちもい、しょに書いているのだと思いました。この水害は真室川町の3分の1がひ害をうけました。3分の1にひ害がうけたのに死者が四名ですんだのはすごいと思いました。

死者が四名ですんだのは

八・六水害から40年がたちました。死者は四名という数で少ないと思いました。なぜ死者が四名ですんだかというと、一つ目はみんなが家族で決めたひな場所にし、かりとにげていたことだと思います。二つ目は、すぐ高い所ににげたことだと思います。すぐ放送されたら外に出ないで家の中に入ったと思います。家族でし、かりひなん場所を決めておけば家族がばらばらにならずにひなん場所であるとと思います。この二つのことがあったからこそ死者が四名という少ない人数ですんだと思いました。わたしがこれからしていく事は、もし水害がきたら高い所にすぐにげることと、家族で決めたひなん場所ににげる事、この二つです。

わたしがひ、くりした事は、ひ害が真室川町だけで多いとふっきゅうがおそくなる広がった事です。あともうふっきゅうが早一つは、他のくてきると思います。死者が四名でふっきゅうが四年で直ったと思います。

でも死者が少ない方が助かると思います。死者が多いとふっきゅうがおそくなる広がった事で少ない方がふっきゅうが早一つは、他のくてきると思います。死者が四名でふっきゅうが四年で直ったと思います。



これは、中央公民館にあった水害当時の、ここまで水がきましたというシルシです。

昭和50年8月真室川水害

実績浸水深

6うた8害ら・いっは水が8てなれにたでっにそ日きん害う?。6おな水より月が

これからしていくこと

これからしていくことは、すぐ水害がおきても、ひなんする場所を、決めておくことです。2つめは、もし水害がおきてしまったその水害のことを頭に入れて水害をしらない人に教える。この2つを守りこ水害でひがいになった人々のことを考え、水害であった事を勉強でいかしていきたいと思います。まず、わたしたちより下の人をゆうせんして、安全にひなんさせることです。そして最後に、いつどこで起こるか分かりません。例えば、買物に行っている時やでかける時に起こるかもしれません。なのでもし真室川の人は地区ごとに集まにひなんしましょう。

水害から40周年!

八・六水害から40周年がすぎました。水が道路に上がってきて家がいっぱい流れてきていたそうです。屋根に登っている人もいて大変そうでした。安久土橋も流れたそうです。町がまるで海のようでした。車やバイク、バスなどいろいろな物が流されたそうです。川のように流れて完成までは約四年間もかかったそうです。だから昭和51年に完成していたことになります。水害後水が引きはじめてからすぐ一日でふっきゅう作業にかかっていたそうです。ぼくはそのころのじょうきょうを思いうかべると、大変だなあと思います。これからも八・六水害をわすれることはありません。これからも頭の中に入れて、生活に生かしていきたいと思いました。

※8・6水害はおそらしい　※きけん

インタビューして分かったこと

昭和五十年八月六日に八・六水害という大きなひ害が真室川町を、おそいました。

土砂くずれがおきてTR大滝駅がおそわれました。なくなった人は、三名でした。でも、三名は多いなと思いました。その他の人は、にげてたすかったと思います。なので、ぼくも水害がきたらすぐたかいところににげて安全にしたいと思いました。でも小さい人をゆうせんにしてひなんしたいと思いました。ひなんにそなえたいと思いました。

後がき

わたしは八・六水害について考えました。水害では木や水などが流れてきたのでみんなはひなん場所ににげました。中央公民館に書いてある水がここまできているしるしがありました。わたしはそこまで水がってきたのでびっくりしました。なのでまた水害がきたらにげたいと思いました。

平成27年10月 日 第 号
真室川小学校

平成　年　月　日第　号
真室川小学校

苦しみを乗り越えた 8・6水害

小　つ衣美斗
川　ん級心光な芽有修
室年は部橋村島鍬田野
裏ヶC度南西小八山小

8・6水害はどんな事

わたしのインタビューした人が言ったことは、「さいきんテレビで見るような集中ごう雨の水害が40年前に自分たちの町にきたことがこわかった。それに水のおそろしさを感じたそうです。水害の時の様子は、流木がはしげたにひっかかって、水がぎゃく流して、道路と田んぼが水びたしになり、あ、というまに海のようになって車がながされていった。わたしは、その話を聞いて、それに水害は、本当にすごくこわいなぁと思いました。地元や友だちの、家が流されたところも見たことがないので、本当に良かったと思いました。それにわたしは、自分の命は、自分で守るということがとても大切なことなんだなぁと分かりました。昔は水害で死者4人だったところがあったそうです。だからわたしも、流されないように学校で社会の勉強をし、かりとそなえたいと思います。

水害のこわさ

八・古水害は、真室川ほど雨がふりました。町の多くのはんいを飲み町のあっちこっちで土砂こう大災害でした。建物くずれや床上しん水になやはくずれ、橋はこわれ、りました。死者は四名。町は、はかいされたようよう日からふっきゅう工きました。ふっこうなじょう体でした。水害の前日までは、晴れがつづきかんそうしていました。町のみなさんは、め事が始まりました。橋は何日もかかったけどべみの雨だと思っていたがんじょうになり、新た町のみなさんは安心しが、雨は何時間もふり続にハザードマップを作ってくらせるようになりき、川がけっかいするたいさくが練られていて、災害から身を守るくらせるのは、このこわい水害があってこそだと思います。

わたしは、この四十年前の体験をあらためて知る事ができました。今後、こういう水害があっても町は大丈夫だと思います。だって町は町民が愛する町だからです。



水害はこんなに、こわいと言うことを絵でひょうげんしました。

しつもんメッセージ

水害はどこまであがったのか。

水害が広がって、多くのくがおそわれたけど死者は四人ぐらいなかったのでよかったです。水害が広がり始めての床安室川止水道のところから、水害の結果、広いはへいでした。

その水は、大人の身長もこえるくらいの水の高さでした。町や、部には、家屋も多かったことが多いと思います。ぼくは、いつ水害がおきるかわからないので、いざのときのために、そなえておなえて、おきたいです。

学び合った豆ちしき

水害は、どろや、木が流れてきて、家の屋根や、犬、ネコが流されていって、大そうです。

どろの川が、百六十五センチメートルくらいまで上がって、これも家もありました。

それを聞いてぼくは、水害は、こわいし、おそろしいと、思いました。だから、水害というさてもいいようにバックに、食べ物をいれていて、すぐにげれるようにしたいです。

感想発表

わたしは、8・6水害のことを学んで、水害はこんなにねそろしいものだとよく分かりました。インタビューをし、いろいろしつ問をしてみて、かのいそうな話などをきいて昔はこんなことがあったんだなと分かりました。

勉強にもなったし、おもしろかったし、はじめてなかったこともあったし、これからも勉強にもなったので、このような勉強をもっとしたいです。